

企画展

写真で観る かさまつの歩み

【会期】

9月13日(火)～10月23日(日)

【開館時間】

午前9時～午後5時

【休館日】

月曜日、祝日の場合はその翌日

【入館料】無料



高口は櫛材は堅く、彈力性があるもの。櫛の先に鷲の口ばしに似た形の鉄製の鉗をつけたものです。櫛先の大小、形態の違いによって、大鷲、中鷲、小鷲、剣鷲などがあります。

江戸時代から明治初期の消防活動は、破壊消防で火を消すことよりも、飛び火を防ぎ、風下家屋を破壊して延焼を喰い止めることが優先しました。町火消しの道具として、高口は大切なものです。短いものと長いものがあり、出勤のとき打ち城し用として持つて出ま

した。高口に類似するものには手鉤があり、櫛先を木材に打ち込み、あるいは櫛子にして木材を移動したり反転したり、米俵等の運搬や引き寄せに使われました。この作業は重量物を取り扱う危険なものですから、操作には熟練を要しました。また、高口のできのよしも重要で、櫛先の木材も鋸製のものと鍛金製のものがあり、自分専用のものを持ち、總えず手入れをしていました。



歴史民俗資料館だより

高口（鷲）

高口に類似するものには手鉤があり、櫛先を木材に打ち込み、あるいは櫛子にして木材を移動したり反転したり、米俵等の運搬や引き寄せに使われました。この作業は重量物を取り扱う危険なものですから、操作には熟練を要しました。また、高口のできのよしも重要で、櫛先の木材も鋸製のものと鍛金製のものがあり、自分専用のものを持ち、總えず手入れをしていました。

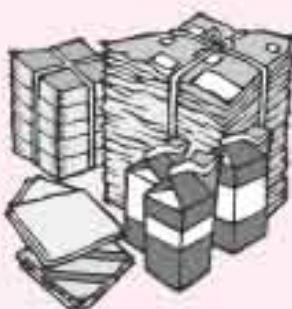
一方、明治時代になると各地に高口を専門に製作する鍛冶屋。地職人も増えて、評判の高い鍛冶屋のところには、遠方からの注文が絶えなかったといいます。現在では、高職人というと高所作業者のことをいいますが、本来は高口を扱う人々の総称でした。資料館では、民俗資料として明治から昭和十年頃まで、消防組、警防団、笠松消防団で使われていた高口を展示しています。

ごみ減量化コーナー

「紙」は大切な資源です！

家庭用燃えるごみの中には、新聞紙・雑誌・ダンボール・チラシ（ダイレクトメール、広告）・紙製容器包装がそのまま捨てられていますことがあります。

しかし、それらの紙は「ごみ」ではありません!!



町の古紙類の収集日や各学校や子ども会が行う資源集団回収に出しましょう！

1人一日100グラムごみ減量運動実施中

たった100グラムの減量でも、全町民で取り組めば、家庭から出るごみを、年間810トン・約2割減らすことができます。